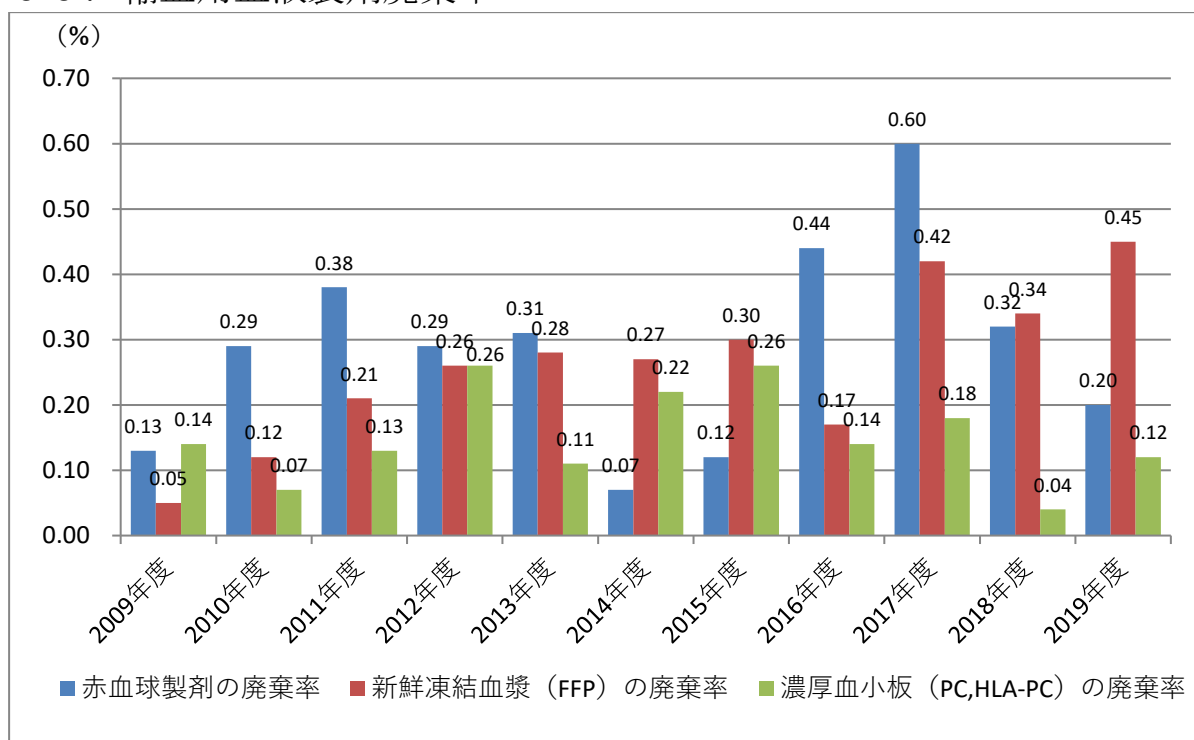


9 9 . 輸血用血液製剤廃棄率



廃棄率は、献血協力者の善意により得られた血液製剤が有効に活用されているかを評価する重要な指標である。廃棄率を低く抑えるため本院では輸血部による血液製剤の一元管理を行っている。これにより不適切使用・不適切保存により廃棄となる製剤の発生を抑制している。2019年度は新鮮凍結血漿の廃棄率が0.45%とこれまでより高くなっているが、全製剤において全国平均より下回っている。(2018年全国平均 赤血球製剤:0.7%、新鮮凍結血漿:1.0%、濃厚血小板:0.4%)

本院の廃棄率は、ベッド数の多い医療機関の中では非常に低率を維持しており、貴重な血液製剤の有効利用に努めている。

データ提供 輸血部